

おきたま 米づくり情報No.12

中生品種はまもなく刈取適期を迎えます！

- 「はえぬき」は登熟期間高温で経過したため、刈取り目安の積算気温が 50℃前倒しに（刈取開始及び晩限が 2～3 日早く）なります。
- 早生・中生では出穂が早まり、特に 7/28 頃出穂の圃場では**胴割粒発生リスクが高い**状況となっており、刈遅れは品質低下に繋がります。高温条件に合わせた刈取計画に見直しを行い、全量 1 等米となるよう、適期刈取を実施しましょう。
- 葉色が濃い圃場でも、籾の黄化はすすんでいます。**籾をよく観察しましょう。

1 穂揃期の生育状況・登熟状況

- 穂揃期の生育は、穂数は少ない～平年並み、1 穂籾数は少ない～多い、総籾数は少ない～平年並みとなっています。
- 8 月 26 日現在、登熟歩合は、出穂後積算気温に準じてすすんでいます。

農業技術普及課 生育診断圃 穂揃期の生育・登熟状況

品種	地域	年次	出穂期	穂数 (本/㎡)	1 穂籾数 (粒)	㎡あたり籾数 (百粒/㎡)	登熟状況 8/26 現在 (%)
はえぬき	川西町 吉田	R7	7/31	469	75.0	352	58.1
		平年	8/3	545	68.7	374	43.0
		平年比・差	-4	86	109	94	+15.1
	飯豊町 椿	R7	7/29	522	60.8	317	70.4
		平年	7/31	542	71.2	384	44.3
		平年比・差	-2	96	85	83	+26.1
つや姫	川西町 黒川	R7	8/9	422	75.1	317	1.8
		平年	8/8	500	71.3	356	20.8
		平年比・差	+1	84	105	89	-19.0
	飯豊町 椿	R7	8/8	521	72.1	376	27.9
		平年	8/8	526	72.6	382	21.7
		平年比・差	±0	99	99	98	+6.2
雪若丸	高畠町 山崎	R7	7/29	501	59.8	300	71.4
		平年	8/1	535	59.1	315	75.6
		平年比・差	-3	94	101	95	-4.2
	飯豊町 椿	R7	7/31	603	55.2	333	64.9
		平年	7/31	615	61.3	376	43.6
		平年比・差	±0	98	90	89	+21.3

2 稲穂をよく観察し適期内に刈取を終了しましょう！

○刈取時期は、出穂後の積算気温（下表）を目安とし、品種、ほ場ごとに

①青籾歩合、②籾水分（25%）、③枝梗の黄化（3分の2以上）等を確認して総合的に判断。計画的に刈取を開始し、適期内に終了しましょう。

出穂後積算気温による刈取適期の目安（平坦：高畠アメダス、中山間：高峰アメダス）

品種名	積算気温	刈始めの青籾歩合	出穂期（本年）	刈取り時期の目安
ひとめぼれ	900～1,050℃	15%	7月31日頃	9月5日～9月10日
雪若丸	950～1,200℃	20%	7月30日頃	9月5日～9月16日
はえぬき（平坦）	900～1,150℃	20%	8月2日頃	9月7日～9月17日
はえぬき（中山間）			8月4日頃	9月9日～9月20日
つや姫	1,000～1,200℃	15%	8月8日頃	9月18日～9月29日
コシヒカリ	1,000～1,200℃	15%	8月8日頃	9月18日～9月29日

※ 8月31日まで本年値、9月28日までは1ヶ月予報による予測値、以降は平年値を使用。

3 乾燥・調製は慎重に！

○収穫後は、速やかに乾燥機に張り込むことが基本ですが、すぐに乾燥できない場合には通風・循環を行い、ヤケ米の発生を防ぎます。

○高水分籾（水分25%以上）を急激に乾燥すると胴割れしやすいため、青籾が多い（籾水分のバラつきが大きい）場合は、「水分の戻り」を意識した「夜間休止乾燥」や「二段乾燥」を行いましょう。

○籾すりは、籾を十分放冷し、適正水分であることを確認してから行います。籾すり前は必ず試しずりを行い、ロールの幅を調整し、肌ずれや胴割粒の発生を防ぎましょう。

○立毛中に胴割粒が多いと予想される場合は、通常の送風温度より5～10℃低めの送風を行い、毎時乾減率を0.6%以下とし、胴割粒増加を防ぎましょう。

○**良質米生産のために、1.90mm網目（LL）以上で選別します。**

○斑点米カメムシ類による着色粒や白未熟粒が発生した場合には、色彩選別機を活用し、品質向上に努めましょう。

4 長稈のため、倒伏に注意！

○7月の高温で草丈が伸び、昨年並みの草丈になっています。一部倒伏している圃場が見受けられますが、**台風や強い雨で倒伏が増える恐れ**があります。倒伏すると刈取り作業が難航するので、早めに刈取りを行いましょう。

農作業事故・熱中症に注意！～あせらず！気もまず！農作業！

○収穫期はコンバインの事故が多発します。※**昨年は置賜管内で死亡事故発生！**

○コンバインの詰まり除去や修理の際は、必ずエンジンを止めてから行いましょう。